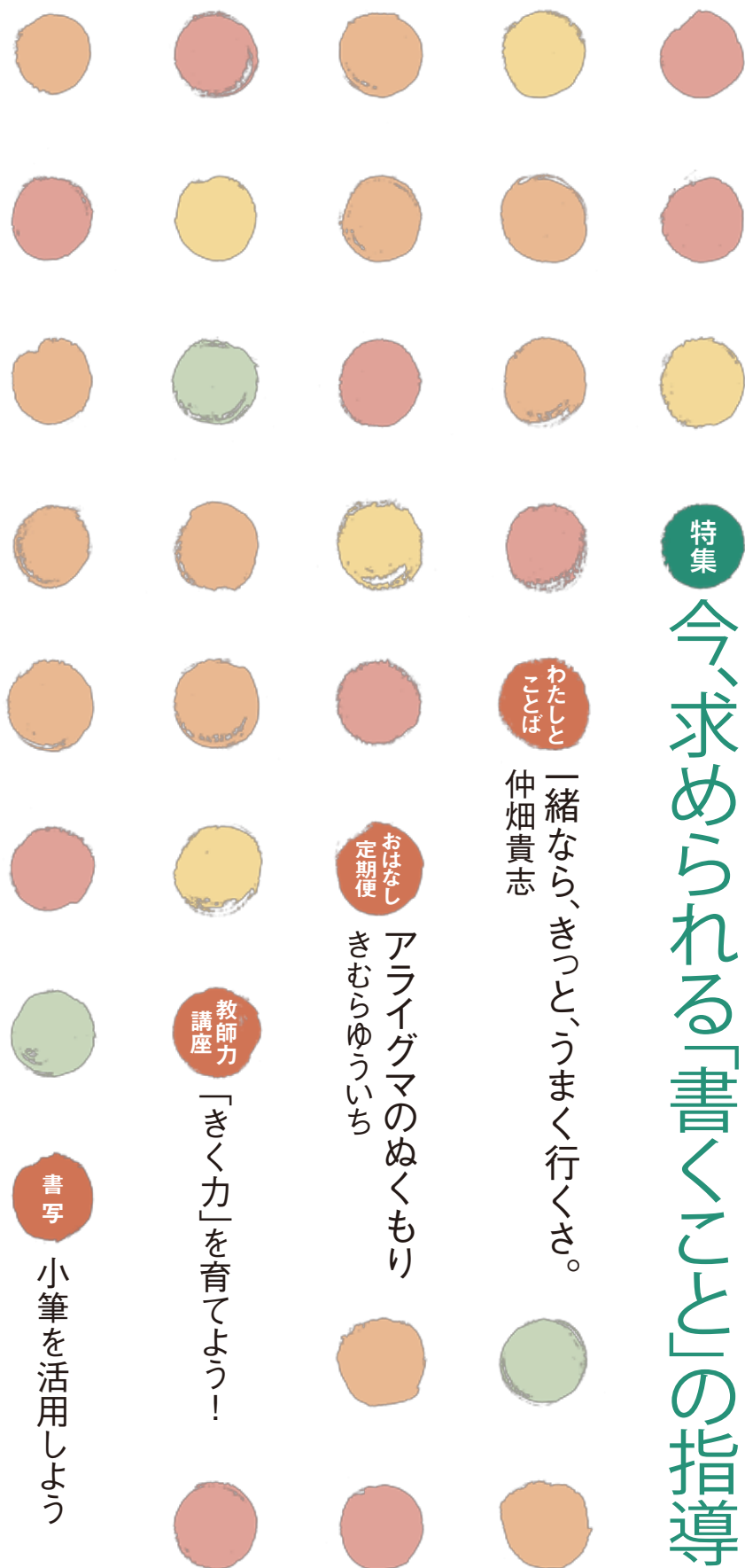


国語教育相談室

小学校
no.
67

光村図書



特集 今、求められる「書くこと」の指導

わたし
ことば
一緒になら、きつと、うまく行こう。

仲畑貴志

おはなし
定期便
アライグマのぬくもり
きむらゆういち

教師力
講座
「書く力」を育てよう！

書写
小筆を活用しよう

光村ライブラリー 全18巻

全18巻
MITSUMURA
Library

教科書の名作!!
リターンズ!!

光村の「国語」が育んできたもの、そのすべてをいまここに。

- 昭和46年から平成12年までの教科書から精選。
- 教科書収録時の学年に基づき、低・中・高学年別に編集。
- 学年の配当漢字にふりがなを付け、読みやすさに配慮。



各巻の内容

低学年	中学年	高学年
1巻 花いっばいになあれ チックタック ほか3作	6巻 太郎こおろぎ ほか5作 7巻 つり飯わたれ ほか3作	12巻 野ばら ほか5作 13巻 獅子 ほか3作
2巻 空いろのたね ほか3作	8巻 小さな青い馬 ほか3作	14巻 木瘤うるし ほか4作
3巻 小さい白いおとり ほか3作	9巻 手ぶくろを買いに ほか3作	15巻 ガラスの小びん ほか4作
4巻 くまの子ウーフ ほか3作	10巻 空飛ぶライオン ほか4作	16巻 田中正造 ほか5作
5巻 からすの学校 ほか7作	11巻 ニホンザルのなままたち ほか5作	17巻 「わたし」とはだれか ほか5作
18巻 おさるがふねをかきました ほか30編		

セット定価 **18,900円** (本体18,000円) ⑤ 各巻定価 **1,050円** (本体1,000円) ⑤
菊判上製 各巻平均80ページ 監修：樺島忠夫／宮地裕／渡辺実
セットISBN 978-4-89528-117-1 セットでお買い上げの場合には、かわいい化粧ケース入り。



光村ライブラリー 中学校編 全5巻

はじめてなのになつかしい……

- 全5巻—文学(3巻)・説明文(1巻)・詩(1巻)
- 読みの抵抗が少ない—常用漢字は、すべてルビ付き。

各巻の内容

1巻 赤い実(井上靖) ほか6作
2巻 車掌の自分(かんべむさし) ほか5作
3巻 最後の一句(森鷗外) ほか5作
4巻 フシダカバチの秘密 (H=フアープル) ほか9作
5巻 朝のりレー(谷川俊太郎) ほか41編



セット定価 **5,250円** (本体5,000円) ⑤ 各巻定価 **1,050円** (本体1,000円) ⑤
A5判上製 各巻平均120ページ
セットISBN 978-4-89528-374-8
セットでお買い上げの場合には、かわいい化粧ケース入り。

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.129 2009(平成21)年9月8日発行 定価126円(税込)
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝村田印刷工業株式会社 デザイン＝mint grafix

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。



コピーライター
仲畑貴志 なかはたかし

一緒なら、 きつと、 うまく行きます。

四十歳になって数年が過ぎた厄年といわれる頃、わたしは極度な不安感に襲われました。

理由はわからない。突然、頭に濃密な風が吹き抜けて、ホープレスになった。希望のない日々。生きつづけるより、死んでしまった方が楽だという思いに支配される。

こころは壊れているけれど、仕事はいくらでもできた。不思議だなあ。

その頃は一九八〇年代の、日本全国アコリヤコリヤの時代。したがって、世の経済性の影響をまっすぐに受ける広告屋としては活況のとき。外国ロケも多かった。でも、ロケ先のホテルの部屋は、必ず低い階を選択し、窓の開かない部屋を指定していた。

飛び降りそうでコワかったのだ。成田まで行って、やっぱり息苦しくなって帰ってくることもあった。ほんとは、すぐに医者へ行けばよかったのだ。ところが頑固なわたしは、自分の力で治してやろうと意地を張った。おかげで三年近くも冷や汗を流す苦い日々を送ることになってしまった。

最後のさいご、友人に説得されて医者へ行った。強迫神経症という診断であった。イキがって、生意気をやってきたけれど、人間、弱いもんだと思った。

そのころの変化は、やはり仕事に出た。コピーライターという、言葉を使う職業だけに、それが如実だったのかもしれない。こころの病理に触れるような表現が増えていた。もちろん、無意識のうちにである。

「一緒なら、きつと、うまく行きます。」

「生きるが勝ちだよ、だいじょうぶ。」

「大切なものは、そう多くない。」

「な〜んだ、搜していたのは、自分だった。」

「あなたが、そんなとき、電話できる人」

「今日、私は、街で泣いている人を見ました」

結局、自分が聞きたい言葉を書いていたのかもしれない。



1947年京都市生まれ。日本の広告界を代表するコピーライターで、カンヌ国際広告映画祭金賞など数々の受賞歴をもつ。代表的なコピーに「反省だけなら猿でもできる」、「目の付けどころが、シャープでしょ。」、「愛情一本チオビタドリンク」など。

CONTENTS

わたしことば 一緒なら、きつと、うまく行きます。 仲畑貴志

特集 02 今、求められる 「書くこと」の指導

対談 佐渡島紗織・松山美重子
「書くこと」教材 系統マップ 安田恭子

教師力講座 7 12 「きく力」を育てよう！ 安田恭子
消極的「聞く」と積極的「聞く」 吉永幸司

書写の時間を
考えよう 5 16 小筆を活用しよう 新しい指導を考える会

おはなし定期便 20 アライグマのぬくもり きむらゆういち

今、求められる 「書くこと」 の指導

PISA（学習到達度調査）や全国学力・学習状況調査で、思考力・判断力・表現力を問う記述式設問に課題があることが浮き彫りとなりました。そういった状況を受け、記述力の育成がますます求められています。今、子どもたちに身に付けさせるべき「書く力」とは何か、そのためにどのような指導をすべきか―。

本特集では、「書くこと」の指導を長年研究・実践されてきたお二人の先生にお話を伺い、今、求められる「書くこと」の指導を考えていきたいと思います。

早稲田大学留学センター 准教授
佐渡島 紗織
愛知教育大学 講師／
元 豊田市立拳母小学校 校長
松山 美重子

対談

アメリカでライティングを学ばれ、「書くこと」の指導を研究されてきた佐渡島先生と、現場で多くの魅力的な実践をされてきた松山先生に、今、求められている「書くこと」の指導について、お話をいただきました。

② 説明的な文章を書く力

松山 佐渡島先生は、大学でライティングの指導をされていますが、大学生にはどのような書く力が求められていると思いますか。
佐渡島 大学で、レポートや論文の書き方を教えているのですが、そういう文章を書くことに慣れていない学生がとて多いですから、学術的な文章を書く力をしっか

り身につけてほしいと思いますね。その力は社会人になってからも、大いに役立ちますから。

松山 大学生になってから学術的な文章を書くように、小学生のうちから「説明する文章」「報告する文章」などの説明的な文章をきちんと指導したいですね。

佐渡島 ええ。小学校から積み上げて練習しておいてほしいなと思います。

松山 以前、中学三年生の理科の授業を見て驚いたことがあります。先生が「エネルギーの変化について考えるために、実験をしてそれをワークシートにまとめてグループ内で報告しましょう」という学習課題を出したのですが、生徒のワークシートを見てみると、「コイルを巻いたら、熱で空気が膨張してフタが飛んだ」と、それしか書いていないんです。

佐渡島 結果だけが書かれているんですね。
松山 でも、先生は「エネルギーの変化について考えるために報告しましょう」と言っただけです。ですから、まず「何を調べるために実験をする」という「目的」を書かなければいけない。次に実験の「方法」を書いて、その後で実験の「結果」を書く。最後に、フタが飛んだかどうかのかという「考察」を書かなければいけない。少なくともこの四つの段階を書く必要があるの

ですが、多くの生徒は、一行しか書いていなかったんです。
佐渡島 中学三年生になっても報告文が一行しか書けない。小学校のうちから、実験報告や観察報告などの表現様式をしっかき身に付けさせることは大切ですね。

③ 表現様式を身に付けさせる

松山 新しい学習指導要領の「書くこと」の言語活動例には、さまざまな文の表現様式が登場しています。説明的な文章だけで



小学生のうちから

「引用」の意識をもたせたいですね。

一九八〇年代に、アメリカやオーストラリアで面白い論争（※）がありました。「作文は個々の状況に規定されているので、様式に分類することは不可能である。相手や目的に応じて書くという指導だけをすればよい」という一派と、「案内文・お礼状……というふうな文章の種類を機能によって分類して指導したほうが、表現技能を身に付けさせることができる」という一派が、論争を繰り広げたんです。

松山 その論争は、どのように終結したのですか。

佐渡島 じつは、まだ終結していません。けれども、実際にわたしたちが文章を書く状況というのは、両派の中間に位置していると思うんですね。つまり「典型的」なお礼状の書き方を知った上で、状況に合わせて調節して書くという。両派の一つの妥協点もそこでした。学校では、典型を教えて、その典型から調節できるように指導するのが妥当なのではないかと。

松山 そういった典型といいますが、文章の表現様式は小学校から身に付けさせない

ればいけない。そのことを、しっかりと意識する必要がありますね。

②「引用」を意識させる

佐渡島 大学生を指導していて気になっているのが、自分の意見と、書物に書かれている内容とを、きちんと書き分けられない学生が多いことです。ですので、大学では引用や参考文献の示し方を、改めて教えています。

松山 新しい学習指導要領では、高学年の指導事項として「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」とありますが、小学校段階から、引用の書き方はしっかり指導しなければいけませんね。

佐渡島 大学生のレポートを読んでいて、文章表現が途中から変わっていておかしいなと思うと、インターネットで見つけた文章をコピーペーストしているということがあります。学生には、「これは剽窃（ひょうせつ）にあたります。他人の文章を盗んだことと同じで

松山 なるほど。低学年で「引用」を意識するのは難しいですが、参考文献を記すくらいはできるかもしれませんね。何を参考にしたら明らかにする姿勢というのは、情報化社会の中では大事になってくると思います。

③教科書教材で育てる「書く力」

佐渡島 松山先生は、「書くこと」の面白い実践をたくさんされてきたそうですね。

松山 伝える目的によって表現様式を明確にして書く、ということでは「すがたをかえる大豆」(三下)を使った実践でしようか。

この教材は、大豆がどうすがたを変えていくかという面白さに着目して、大豆のすごさを紹介しています。この教材を使って、「みんなに教えよう！野菜のすごさ」という実践をしました。自分の好きな野菜を友達に伝えようというものです。

表現様式を身に付けさせる場合、形式的な指導になりがちですが、わたしは、子どもたちの興味や目的意識を大切にしながら

指導しなければいけないと思っています。

この実践では、たとえばピーマン好きの子が、「ピーマン嫌いの子をピーマン好きにさせたい」というワクワクした思いで、取り組みました。

佐渡島 いいですね。「ピーマンの魅力を知らない子に教えてあげよう」というのは、「何を」「誰に向けて」「どうするか」という題材・相手・目的がしっかり設定されています。これはとても重要です。それらがそろったときに初めて、子どもたちは「こういうふう書くこう」と表現を選ぶことができるんですね。

松山 この実践では、「変身！野菜ブック」という野菜の紹介文を書かせたのですが、子どもは楽しみながら取り組んでいました。「すがたをかえる大豆」にならって、まず野菜の概要を述べてから、野菜の特徴を紹介する。その中で、おいしい野菜の料理の作り方を説明する、という構成で書かせます。

この「野菜ブック」には「野菜のすばらしさを調べて紹介する」とのと、「料理の作り方の手順を説明する」という二つの要素

すよ」と、厳しく注意するんですが、学生は「自分はそんなに大変なことをしたんですか」って驚くんです。ですから、小学生のうちから、「引用」の意識をもたせることは、大事だと思います。

松山 その通りだと思います。

佐渡島 以前、アメリカの小学校で二年生の作文の授業を見学したのですが、先生が子どもたちに参考文献を書くように指導していて、とても驚きました。やっと文が書けるか書けないかの子どもでも、何かを参考にしたときには書籍名と著者名を記すように指導する。参考文献を用いて書く際の基本的な姿勢を教えているのだなと思いました。

が入っています。

佐渡島 「作り方の手順を説明する」というのは、この教材には入っていない要素ですね。

松山 そうですね。でも、「作り方の手順」というのは、低学年で学習しているんですけど例えば、「一本の木」(二下)で、木の絵を描く手順を「まず、くみきを かきます。」「つぎに、くえたをかきます。」というように、順序に気をつけて説明文を書く学習をしています。

佐渡島 なるほど。低学年で学習した書く力が、この活動に生きているんですね。

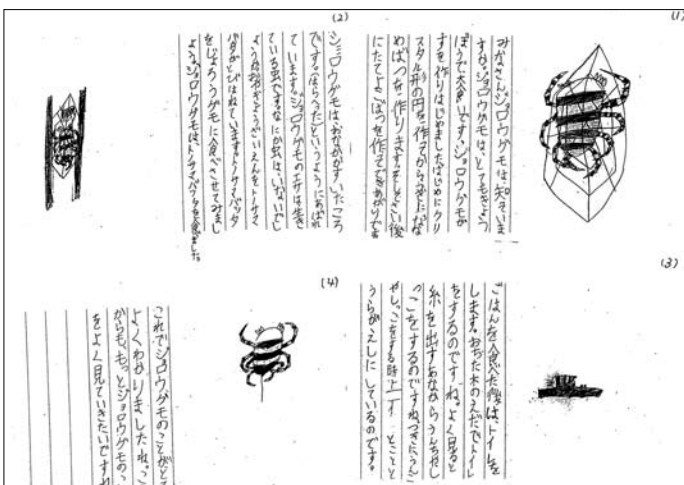
松山 そうです。また、この学習では子どもはどうして「交流」ができます。先ほど、

まつやま みえこ 松山 美重子

愛知県生まれ。愛知教育大学講師。愛知県教育委員会義務教育課指導主事、豊田市の公立小学校校長を歴任し、現職。三河教育研究会国語部会長や愛知県女性校長会会長を務めるなど積極的に活動し、その授業実践には定評がある。著書に「ことばの力を身につけるおもしろ体験ワーク」(共著・明治図書)などがある。

さどしま さおり 佐渡島 紗織

神奈川県生まれ。早稲田大学留学センター准教授。1998年米国イリノイ大学でPhDを取得。その後、国立国語研究所研究補佐などを経て、現職。研究分野は国語教育で、特に「書くこと」の指導と評価を調査・研究している。著書に「これから研究を書くひとのためのガイドブック」(共著・ひつじ書房)などがある。



佐渡島先生もおっしゃいましたが、「教えてあげよう」という目的がはつきりしていますので。

佐渡島 新しい学習指導要領にも「交流」という言葉が新たに登場しましたよね。これからますます求められる活動だと思っています。松山 そうですね。交流の方法としては、書いた文章をもとに感想交流会や意見交流会をすること、発表や展示をして批評や助言をし合うことなどが考えられます。「交流」は、書くことのための目的を明確にするために有効に位置付けるようにしたいものです。

④ 書くために読む

松山「大造じいさんとガン」(五下)では、読書交流会をするために読もう、という実践をしました。椋鳩十の別の作品を読んで、そのテーマと、「大造じいさんとガン」のテーマを比べるとという、テーマ読書交流会をしたんです。

佐渡島 具体的には、どのように行ったのですか。

松山 作品のあらずじ、登場人物の人物像
自分が考える作品のテーマなどを読書カ
ードにまとめさせ、それをもとに交流会をし
ました。

それにはまず、全員で「大造じいさんとガ

ン」の読書カードをつくってみる。そうすると、「大造じいさんとガン」を読む目的が、読書カードを書くために読む、ということになります。あらすじを百五十字程度でまとめるにはどうすればよいのか、大造じいさんはどのような人物なのかなどを考えながら読むわけです。

佐渡島 「書かれ方」を読んでいくんです。

佐渡島「書かれ方」を読んでいくんですね。

松山　そうです。「読むこと」を「書くこと」につなげるというのは、大事なことだと思っています。PISAの結果からでも、「目的的に読む」ことの必要性が言われています。これからは「書くこと」を、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」といった別領域に生かしていくような指導が求められると思います。

観察記録文でいえば、「たんぽぽのちえ」(二上)を使って、「絵本で知らせよう、マイこん虫記」という観察記録文を書く実践をしたことがあります。

佐渡島 昆虫記を書かせたんですか？

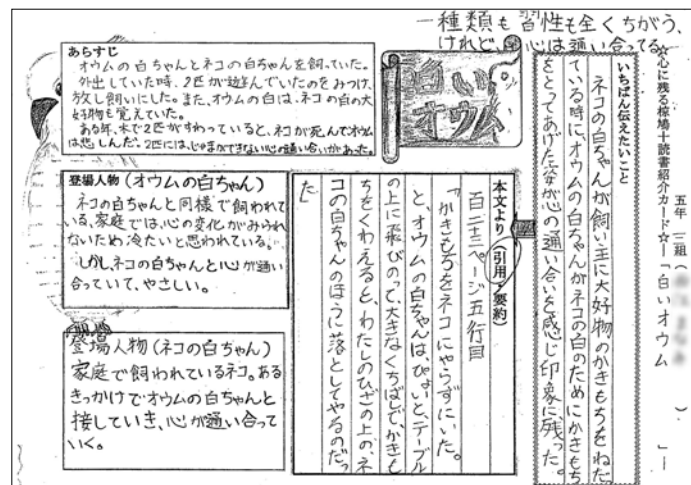
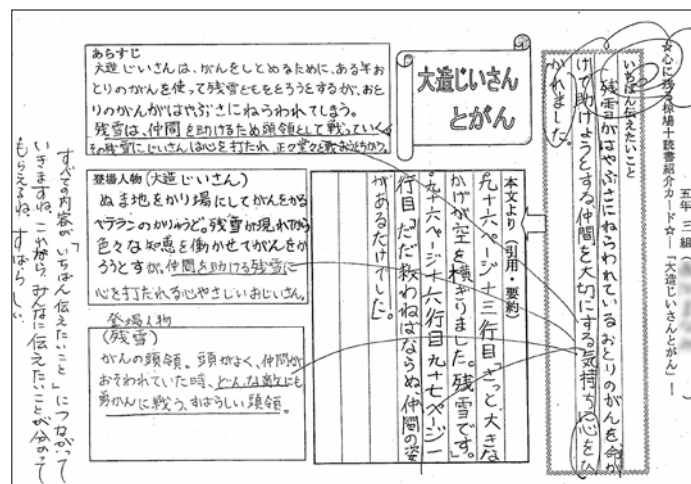
松山 ええ。「たんぽぽのちえ」は優れた教材で、筆者がどこに目をつけて、どのように観察しているかがとてもわかりやすく書かれているんですね。

「たんぽぽのちえ」は「花びら」「くき」

佐渡島 昆虫記を書かせたんですか？

松山 ええ。「たんぽぽのちえ」は優れた教材で、筆者がどこに目をつけて、どのよう
に観察しているかがとてもわかりやすく書
かれているんですね。

というようにきちんと段落構成がされている。昆虫でいえば、「体のつくり」「すみか」「えさ」という、視点を分けて書くという学習になります。また、昆虫記を書かせる際には、『幼年版 ファーブルこんにちは』（あすなろ書房）も子どもたちに紹介しました。それによつて、ファーブルの観察の姿勢を子どもがまねて、昆虫のえさの食べ方や、巣のつくり方をじっくりと観察するんです。



◎ 他教科や生活場面に生かす「書く力」

佐渡島 書く力は、別領域だけでなく、他教科にも生かせそうですね。

松山 はい。先ほど、中学三年生の理科の授業の話をしましたが、報告文、観察記録文などの「書くこと」は、理科・社会・総合的な学習の時間で、頻繁に使いますよね。

佐渡島 これだけ絵が描けているということとは、一生懸命観察していたんでしょうね。

松山 ええ。そして観察した内容を段落に分けてきちんと書いている。これは、理科を学ぶときにも生きると思います。

佐渡島 理科や社会では、調べ学習などの調査報告をよく行いますが、調査報告には、二つのパターンがあることをおさえておくと、指導しやすいと思います。調べ学習のように、資料だけを使って調査する方法と、自分でデータをとって調査する方法の二つです。

資料だけを使って調査する場合、集めてきた資料がどこにあったものなのか、後で読者がたどれるように書くことが重要です。自分でデータをとって調査報告する場合、自分で現場に行って観察したり人と話をしたりしますので、この流れを、先ほど松山先生がおっしゃった中学三年生の理科の報告文のように、目的・方法・結果・考察・結論という一定の型に沿って記述します。

松山 教科書教材でいいますと、前者は「食べ物のかせになろう」(三下)で、後者は「生活を見つめて」(四下)ですね。

佐渡島 小学校の先生は、全教科教えていることが多いですから、ぜひ理科や社会の時間にも調査報告のパターンを意識して指導していただきたいです。また、「書くこと」は生活場面でも生かされますね。

「書くこと」というのは、

思考力を鍛えるのにいい領域だと思います。

松山 学校のあらゆる生活場面で生かせると思います。たとえば、廊下の掲示物を見ると、その学校がどのように「書くこと」を指導しているのがわかります。

「おすすめの本の紹介コーナー」で、「こんな本があります。面白いので読んでください」とだけ書いてあるのと、あらずじ、面白さのポイント、キャッチコピー、登場人物紹介などをふまえて書いてあるのとでは違います。

佐渡島 掲示物ひとつ見ても、指導の違いが表れているんですね。

松山 先生方には、日常生活でも「目的に応じて書くこと」を活用する場面を、意図的につくってほしいと思います。

佐渡島 そして、活用場面をつくるだけでなく、指導もしっかり行っていた方がいいですね。

◎「書くこと」で思考力を養う

佐渡島 よく大学生にも話すのですが、「書くこと」と「考えること」は一体だと思う

んです。書く作業は、頭にある考えを表現しているだけだと思いますけど、実はそうではなくて、「考えるために書く」ということもあると思います。わたしは、学生に「言語論的転回」という考え方をよく強調して話すんですよ。

松山 「言語論的転回」というのは、どういうことですか。

佐渡島 たとえば日本人は、「赤」といつても、えんじ、朱色、れんが色、真つ赤と、色を表現するたくさん言葉をもっています。日本人にそれらの色を見せて、「これらは同じ色ですか、違う色ですか」と尋ねると、「ぜんぶ違う色です」と答えるでしょう。しかし、「赤」という言葉しかない国の人尋ねると「すべて同じ色です」と答えます。これは、日本人が色を識別する能力が高いわけではなく、さまざまな「赤」を説明する言葉があるから違う色だと認識する、と考えられます。

このように、わたしたちは使いこなせる言葉の範囲でしか思考できないという考え方が、「言語論的転回」です。豊かに言葉

先生にさまざまな実践をご紹介いただきましたが、その中で、子どもどうしが文章を読み合ったり、文章をくり返し書き直したりすることで、言葉の使い方をじっくり検討する力が育つんですね。

◎今、求められる「書くこと」の指導

佐渡島 よく現場の先生方から「書くこと」は評価が難しいとお聞きます。わたしは、書かせることの目的を絞って、評価の観点を思いきって絞っていけばいいのかなと思っています。

「こういう目的の文章です、だからこれができるいれば○にします」と。その代わり多くの機会を設ければ、評価も難しくなるのではないのでしょうか。

松山 そうですね。そうように焦点化することは大事だと思います。書くことが好きな子は、原稿用紙十枚くらいを一気に書いてしまいます。だからといって高く評価できるわけではありません。学年と表現様式

から書くべき文字数を設定して、その文字数でどう構成するのか。そういう書く力をつけさせることが大事なんです。評価も身に付けさせる能力を明確に行うべきです。

また、「書くこと」を教えるときは、取材して、構成メモを書いて、記述して、推敲して……あれもこれもやろうとしがちです。しかし、新しい学習指導要領で具体的な言語活動例が示されたことを考えても、活動を焦点化することは大事ですね。

佐渡島 書く活動を焦点化し、評価も焦点化するということですね。

松山 それから、観察記録文でいえば、一年生では観察記録を簡潔にここまでやりました、二年生では「たんぽぽのちえ」を参考にして観察対象を詳しく見て段落をつくって文を書きました、というように、指導の系統性を意識して少しずつ積み上げていくことが大切だと思います。

佐渡島 「書くこと」の指導は、「焦点化する」とことと、「積み上げる」とこと、といえるそうですね。

を使えるようにすることは、

思考そのものを鍛えることな

んですね。ですから、いい考えを

もっている人が、自然といい

文章が書けるわけではなくて、

文章をよくしていくことで、考えているこ

とまでが、深く確かになってくるんです。

松山 思考力を「書くこと」で育てるといのは、新しい学習指導要領にも示されていますね。

佐渡島 各学年の目標を見ますと、思考力育成の視点が盛り込まれているなどと思います。特に低学年では「簡単な構成を考えて文や文章を書く能力」とあります。低学年から構成を意識させるというのは、思考のパターンが強調されているのかなと思いました。

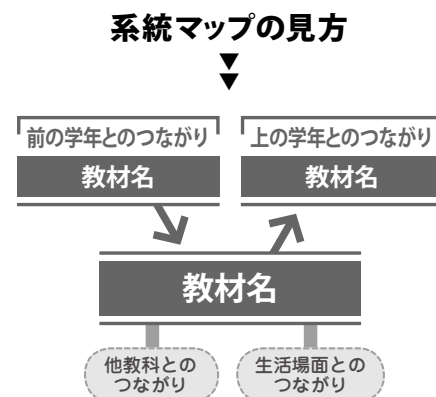
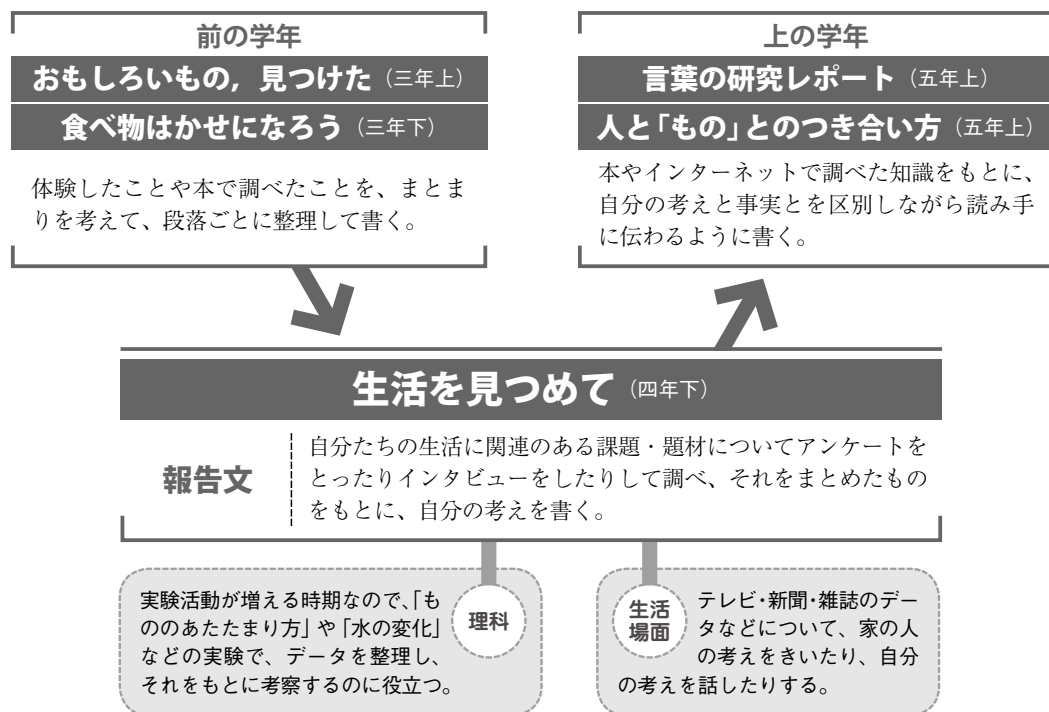
松山 教科目標にも「思考力や想像力及び言語感覚を養い」とありますね。

佐渡島 「書くこと」というのは、思考力を鍛えるのにいい領域だと思います。松山

最近、大学生と接していて気になるのが「卒業後に何をしたらよいのかわからない」と思っている人が多いことです。もつと社会とのかかわりを感じて、社会に対して自分の意見をもってもらいたいです。そのためにも「書くこと」は直近の領域だと思っています。「書くこと」で自分や社会への認識を深めていきますから。

松山 そういうふうに「書くこと」をとらえて、小学生のうちから指導していきたいですね。表現様式や引用などについてお話ししましたが、それらをきちんと身に付けると、自分の考えが明確になりますし、「書くこと」に抵抗がなくなります。子どもたちが「書くこと」の学習を通して、自分の考えを深め、もつと書いて伝え合いたいと思ってくれるといいなと思いますね。

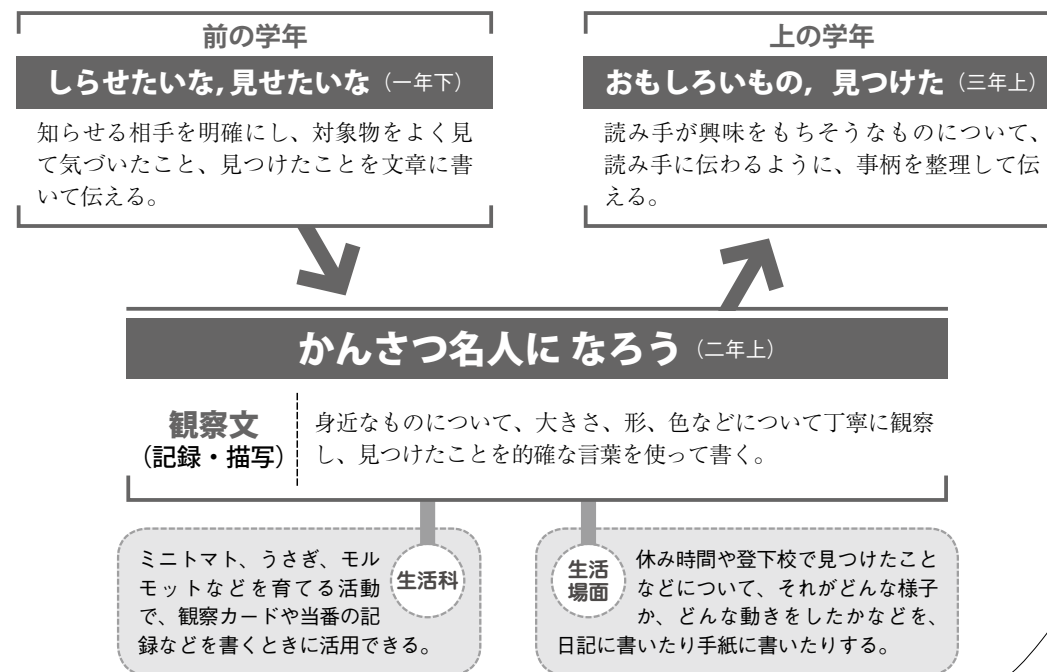
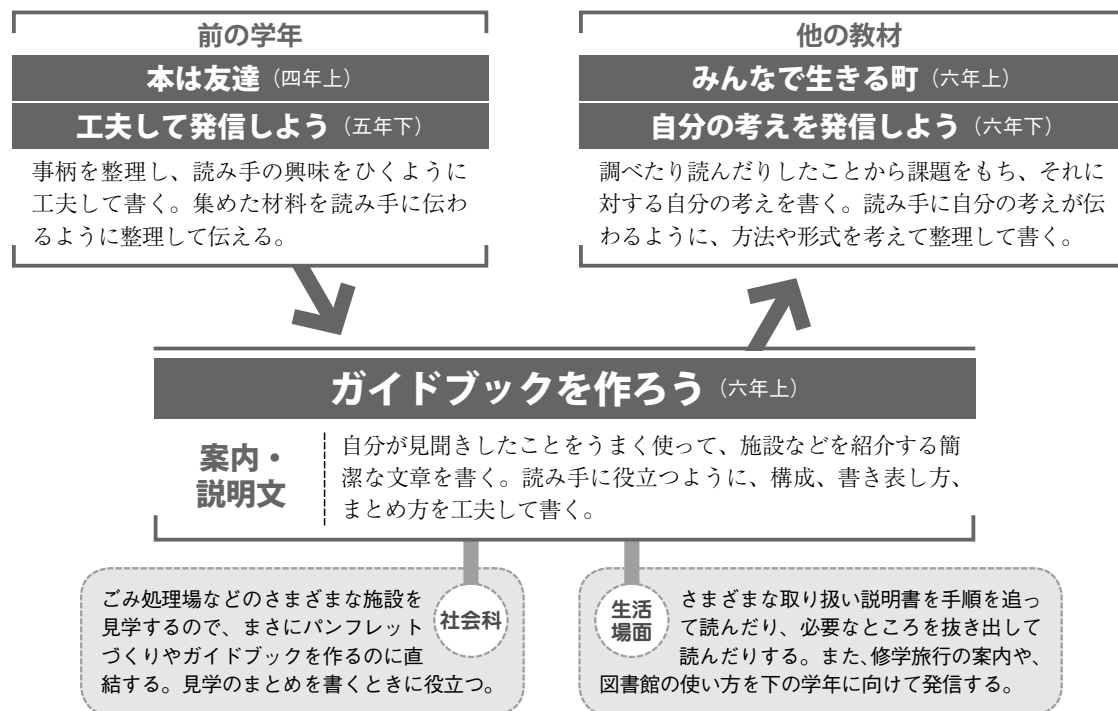
「書くこと」で自分の考えを深めて、もつと書いて伝え合いたいと思っしてほしいですね。



「書くこと」教材系統マップ

元新宿区立西戸山小学校教諭
やす だ きょう こ
安田恭子

各学年の「書くこと」教材を使った学習が、実際に他教科のどんな学習とつながるのか、生活場面にどう生かせるのか、また他学年の「書くこと」教材にどうかかわるのか、低・中・高学年で一つずつ例示しました。他の教材を指導される際にも参考にしてみてください。



「きく力」を育てよう！

元新宿区立西戸山小学校教諭
やすだきょうこ
安田恭子

「きく力」を育てる3つの難しさ

Q 「さあ、授業だ」と思って、ぼくが教室に入っても、子どもたちの前に立って、「さあ、学習をはじめよう」と声をかけても、おしゃべりを止めない子が大勢いるんだ。ついつい大きな声で、「話を止めなさい」と叫んでいる自分。全く情けないよ。

Q わたしのクラスは、とても静かでお行儀もよくて、わたしの声が聞かれないというのではないの。でも、今話したばかりのことに、いつて質問しているのに、「聞いていませんでした」という返事がくっくる。



A 「学校生活の基本は『きく』と『ある』といっても過言ではないくらいに、一人ひとりの子どもたちに「きく力」を育てることが大切です。しかし、「一方で「きく力」を育てることは、たいへん難しいとも言われます。その難しさを分析してみると、①指導の段階がわかりにくい。②指導の継続がしにくい。③指導の成果が見えにくい。という三点に絞られるようです。今回は、あなたのクラスの子どもたちを、よく「きく子」にするための手だてを考えてみましょう。」



段階的に「きく力」を育てよう

「きく力」には、段階があります。「聞くこと」からスタートして、「聴くこと」ができるようになり、最終的には、一人ひとりの心の奥底で「効くこと」につながるのが望ましいといえるでしょう。

実際の国語科の授業では、何よりも各学年に配当されている「話すこと・聞くこと」の教科書教材を十分に吟味しましょう。何をどのように指導することが、目の前の子どもたちに必要な「きく力」を育てることになるのかを見極めて指導することが大切です。

特に、「きく力」を育てる指導で気をつけたいことは、教師が大きな声で威圧的に子どもたちに話すことを避け、丁寧な言葉づかいで話すことです。

さらに、授業の合間や、朝の会や帰りの会といった少しの時間でも、「きく力」を育てることができます。今回は、そのようなちょっとした時間を使った段階的で、効果的な継続指導の例をご紹介します。

低学年では聞く力に重点を！

低学年では、「聞く姿勢」をしつかりと身に付けさせましょう。聞くときの約束や合図を決め、パターン化することも効果的です。そのために、「なぜなぞぞ」をするとよいでしょう。問題を出す人の順番を決めたり、ヒントの回数を決めたり、ルールを工夫しながら行います。



使えば使うほど減るもので、鉛筆となかよし。なあに？

中学年では聴く力に重点を！

中学年では、聞くことと聴くことの違いを理解させ、今、自分はどう聴かなくてはいけないか、考えさせましょう。そのために、「伝言ゲーム」をするとういでしょう。ちょっとした時間を使い、席の列などを使って伝言し、伝わり方を競います。



「8時に南公園の鉄棒の所に…」

今日はどんな伝言かな。

正しく伝えなくちゃ。

高学年では効く力に重点を！

高学年では、聴いたあとに、効いたことを確かめる活動を必ず取り入れるようにしましょう。そのために、「日直のニュース紹介」をするとういでしょう。二人が役割を交代しながら行ったり、クラスの友人に問いかけたりします。「どんな感想を…」と問うかけることが大切です。



わたしは……のために多くの人が働いていると聞き、ボランティアの力のすばらしさを感じました。

ぼくが伝えたいニュースは、海がめが今年も無事に……です。Bさんはこのニュースを聞いてどんな感想をもちましたか。

授業で、聞いている格好をしている子を「消極的「聞く」と位置づけ、聞いて行動し、発言し、話題にかかわる子を「積極的「聞く」と位置づけて考えてみよう。

消極的「聞く」から積極的「聞く」へ

「しっかり聞きましょう」ということを、一日に何度も聞いている子どもたち。その都度、姿勢を正し、聞くことに集中する。しかし、しっかり聞いているはずなのに力が育っていないという手ごたえはあまりない。国語科と他教科の授業を比べると、国語科は「聞く」という時間が圧倒的に多い。しかし、「読む」や「書く」という活動と違って、聞く力は育っていく過程が見えにくい。だからこそ、姿勢を正すことだけが聞くことだと思い込んでいる子に聞き方を教える必要がある。

「しっかり聞きましょう」と言うが…

消極的「聞く」と積極的「聞く」

よし なが こう し
京都女子大学教授 吉永幸司

3 「話す、書く、読む」活動と連動させる

消極的「聞く」に意識を高めるには、「話す、書く、読む」という言語活動と連動させると効果がある。書くため、読むためという目的や課題をもつことで、積極的に「聞く」意識が高まるからである。例えば、聞いたことに対して、感想を述べる、質問をするなどの話す活動、聞いたことをノートにまとめる、メモをする

消極的「聞く」の傾向の子は、目的をもたないで授業に参加している場合が多い。発問に対してもわかっているのかいないのか反応が鈍いし、課題の解決も消極的に見える。積極的「聞く」の傾向の子は、質問をしよう、答えを発表しようというように、常に話し手に働きかけている。消極的「聞く」でもそれほど自由にはしないが、積極的「聞く」に意識を変えると、主体的になり学習が楽しくなる。

「聞く」ことは人とかかわる力を育てる

消極的「聞く」であっても子どもは日常はそれほど不自由ではない。だからといって、そのままにしておく、その子は、人とかかわる力が育たないように思える。子どもは日常を見ていると、聞くことが上手な子は友達が多いし、相手の気持ちを察して行動している姿をよく見かける。話を聞く、指示に従って行動するなど聞く活動の底にあるのは、人に働きかけているということである。積極的「聞く」は相手への思いやりや人を大事にすることの始まりである。「聞く」は、人の言葉を受けとる、受け入れるということなのだから。

「きく力」を育てるための4つのポイント

- 1 **聞く 聴く 効く 場を工夫しよう！**
きく指導でいちばん大切なことは「場」を工夫することです。意図的・計画的に場を設定することを心がけましょう。
- 2 **きいた後の活動を考えよう！**
きいただけで学習をよしとするのではなく、きいた後でその内容に関する活動を入れましょう。たとえば、話の中の大切なことばを使って文を作るなどすると、きくことができていたか振り返ることができるでしょう。
- 3 **立場を変えて考えさせよう！**
きくことの裏側には必ず話し手がいます。時に話す側に立たせることによって、きく大切さを気づかせましょう。
- 4 **重点を決めて根気よく！**
何の指導もそうですが、何でもかんでもいっしょに指導しては効果が上がりません。1学期は…今月は…と、重点を決めたりくり返したりして指導を重ねましょう。



わたしたち大人でも、人の話をきくことは、なかなか根気のいることであり、受け止めるにしろ、疑問をもったときにどう処理するかにしろ、多くの難しさがあります。よく「教師は最大の言語環境である」と言われますが、いちばん効果的な手だては、教師がよい聞き手の見本を示すことです。子ども一人ひとりの話を丁寧に根気よくきくことを大事にしたいものです。

小筆を活用しよう

新しい指導を考える会

書写は、大きく毛筆学習と硬筆学習に分けられます。毛筆といえは大筆が頭に浮かぶのではないのでしょうか。実際、研究会などの毛筆を扱った公開授業では、ほとんどが大筆を使用しており、小筆に焦点を当てた授業にはなかなか出会えません。しかし、小筆だからこそ可能な毛筆学習があるはずです。ここでは、小筆に焦点を当て、意欲をもって楽しく取り組める毛筆学習について考えたいと思います。

1 小筆を見直そう

毛筆学習の時間に使う小筆は、最後に名前を書くときに使うものというイメージがあります。確かに、大筆で満足できる文字を書き、最後に名前を書き入れて一つの作品が完成します。

ここで考えたいのが、大筆で書く活動

に充てた時間と、小筆で書く活動に充てた時間の違いです。大筆で書く活動では、お手本を分析したり、自分の書いた文字と比較したりして、じっくりと時間をかけて取り組みます。しかし、名前を書き入れるのは、二、三枚ではないでしょうか。せっかく満足した文字が書けたのに、小筆で学年と氏名を書き入れたらうまくいかなかったと残念がる児童をよく見か

2 小筆を活用した指導例1 —授業の中で—

次に述べる事例は、授業の中で行った、小筆の指導です。

まず、少しの水で墨をすませます。硯に広がる墨の模様や墨の香りは心を落ち着かせるので、ときどき墨をする体験をさせたいものです。

次に、小筆を持つ児童が次の①～③についてできているかどうか確認します。

そして、自分の名前を練習させます。また、少々手間はかかりますが、事前に教師がそれぞれの児童の名前を書いた左のようなお手本を用意しておくとうい

三年 光村 太郎

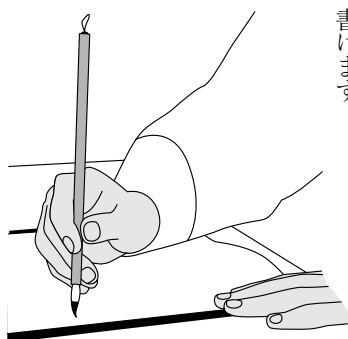
半紙の左側に名前を書いた
お手本を用意するとよい。

児童は、それを下敷きの下に名前だけが見えるようにずらして置き、それを見ながら名前を書きます。名前の字間のと

り方などは、作品の配列や名前の字数によっても違ってきますので、試し書きをさせます。作品から少し離れて全体のバランスを見るように指導するとよいでしょう。いろいろと試すなかで、児童の書きやすい方法をとらせるようにしましょう。

② 腕の構え方

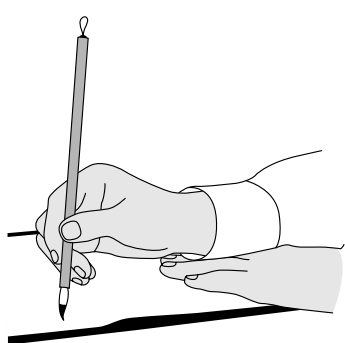
提腕法…筆を持った手の手首を固定せず、軽く机上につけて書く方法です。手首が固定されていないので、なめらかな動きができ、伸びやかな字が書けます。



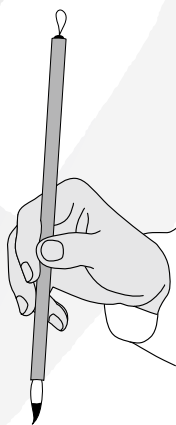
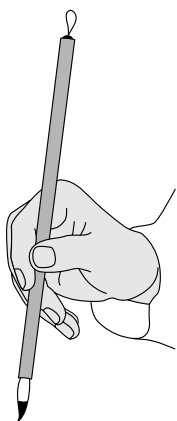
枕腕法…筆を持たない手の甲の上に筆を持つ手を置いて、軽く支えにして書く方法です。慣れると書きやすいです。

③ 指のかけ方

単鉤法…人差し指と親指で筆を持ち、中指で支える方法です。「一本がけ」ともいいます。小筆の場合は、単鉤法が多く用いられます。



双鉤法…人差し指と中指を軸の前に出し、薬指の爪の辺りで支える方法です。「二本がけ」ともいいます。



3 小筆を活用した指導例2 —小筆を身近に—

次に述べる事例は、授業以外の時間を使った小筆の指導です。

本校では毎月、全校で俳句集会をもっています。投句箱を設置し、集まった俳句の中から、教師が子ども一人につき一句選び、小筆で短冊に書いて掲示しています。

全校児童二十名の小規模校ということもあり、次は、五・六年生が全校児童の俳句を書いて掲示する活動を試みました。



小筆のコーナーで、色紙づくりに取り組む児童

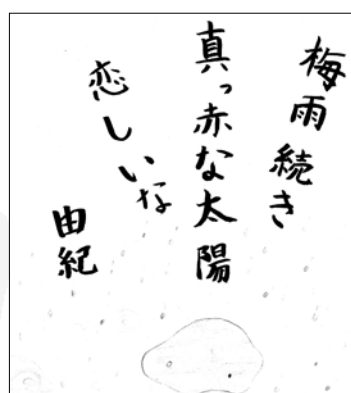
短冊でなく色紙に書いて、色鉛筆で絵も描き加えることにしました。最初は授業時間を使って行いましたが、もつと書きたいという児童や、さらにきれいに書き直したいという児童がいたため、授業以外の時間で小筆が使えるスペースを作ることになりました。フリースペースとして使っていた空き教室に、俳句の短冊を飾ったり小筆を自由に使えるコーナーを作ったりして、児童が気軽に小筆を使える部屋に変身させました。

小筆コーナーには、毛筆の用具一式と密閉容器で作った墨壺とラップを用意します。ラップは、使用後の小筆が乾かないよう巻くために使います。



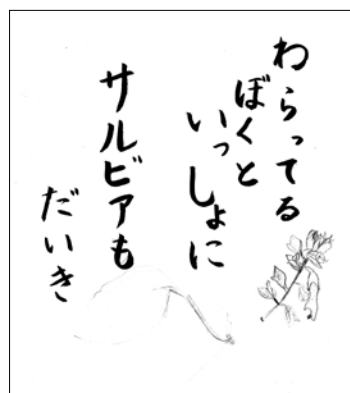
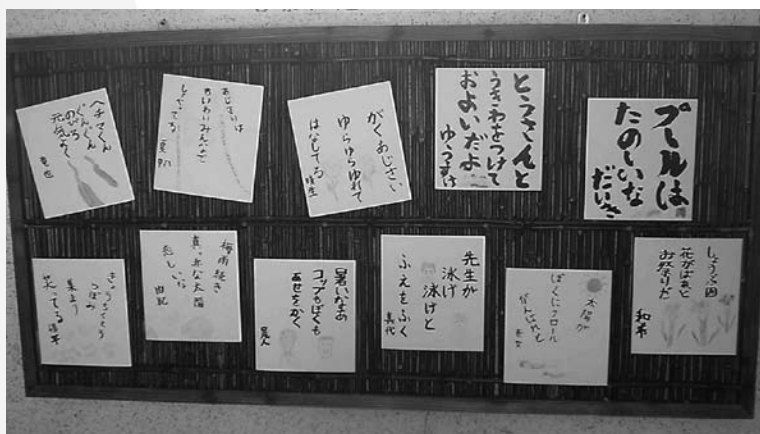
この部屋で、高学年が色紙に俳句を書いていると、他の学年の児童も、小筆に興味をもつようになりました。低学年が小筆を使うのは難しいですが、児童の思いを大切にしたいと考え、自由に体験させました。

こうしてでき上がった作品は、児童の目につく場所に掲示しました。

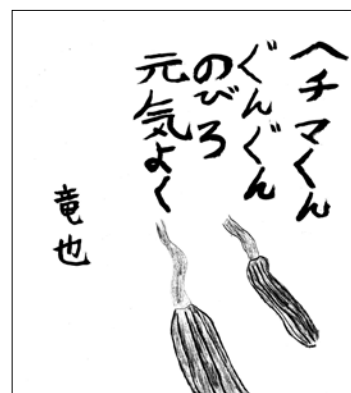


梅雨続き 真、赤な太陽 恋しいな
六年 由紀

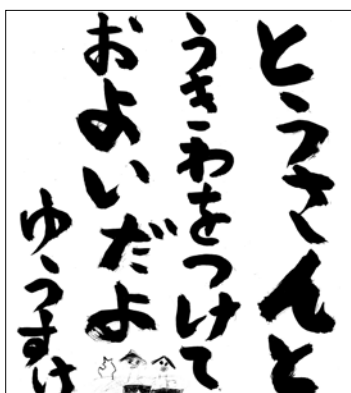
先生のように、短冊に書いてみたという六年生の児童がいたため、筆ペンで書かせた。



6年生の作品



4年生の作品



2年生の作品

4 おわりに

今回の取り組みを終えた後、児童から小筆を使って絵手紙を書いてみたいという声が出ています。この意欲を大切にしつつ、書写学習の一環として、確かな文字感覚、知識や技能を身に付けることができるかどうか、評価を加えつつ進めたいと思っています。

※短鋒：穂が短い筆。穂が長いものは長鋒という。

【参考文献】

- ・「書写指導（小学校編）」（全国大学書写書道教育学会編 萱原書房）
- ・「小筆・筆ペン練習帳」（岡田崇花著 日本文芸社）

オ

オカミは疲れ果てていました。心も体もボロボロでした。

そんな自分を引きずって、ただ歩き続けることしかこのオオカミには残されていませんでした。もちろん行く当てなどありません。

本当なら、今頃は一番若いボスになって大笑いしていたはずでした。ボスになったら、他の群れのボスもどんどん倒し、世界一のボスになるのが夢でした。でも、ボスとの一騎打ちに負けたのです。

お は な し 定 期 便

アライグマのぬくもり

きむら ゆういち (文・絵)

「おはなし定期便」は、子どもたちへの「読み聞かせ」や「朝の読書」の時間などにご活用ください。

「へへ、このままこのボスを倒せば、ついにこのオレが……」

そう思った瞬間、ボスが頭突きをしました。

ほんの一瞬の油断で形勢逆転です。

さすが群れのボスです。ちょっとした

隙も見逃しません。

そこからはもうボスの一方的な勝利でした。

オオカミはキズだらけの体を地面にたたきつけられたのです。

もう起き上がるなんて出来ません。

そんな姿を見た仲間たちは、黙って

去っていきました。

あんなに慕っていてくれたのに。もう誰も信じられません。ズキズキする体をやっと起こしてヨロヨロと歩き出しました。夢も破れ、仲間も失い、ひとりぼっち。

「オレにはもう何も残ってない」

そうつぶやいた時、「うぐっ」木の根っこに足を引っかけて坂道をゴロゴロゴロ。

転がりながらオオカミはもうすべてがどうでもよくなっていました。

ドスン。

茂みに隠れていた何者かの体にぶつかってやっと止まりました。

「ひゃっ」

何者かは悲鳴を上げると、茂みからとび出し近くの木陰に隠

れました。

「なんだろう。今の？」

オオカミはぶつかった時のぬくもりに、懐かしさを感じたのです。

よく見ると、それはアライグマでした。

オオカミは、優しかったお母さんを思い出しました。

「待ってくれ」

オオカミは無性にアライグマのそばにいたくなりました。

「助けて」

アライグマはオオカミに追いかけて、必死に逃げ出します。

「違うんだ」

そんなことを言っても待ってくれません。

でも少しだけオオカミの方が足が速かったのです。

アライグマは捕まえられる瞬間に、木のウロの中に飛び込みました。

穴の入口は狭くて、オオカミの体は入れません。

「違うんだ。オレはただ……」

オオカミはウロの中に呼びかけました。

「ただ何よ」

中から声が返ってきました。

「ただオレは、おまえのそばにいたいから」

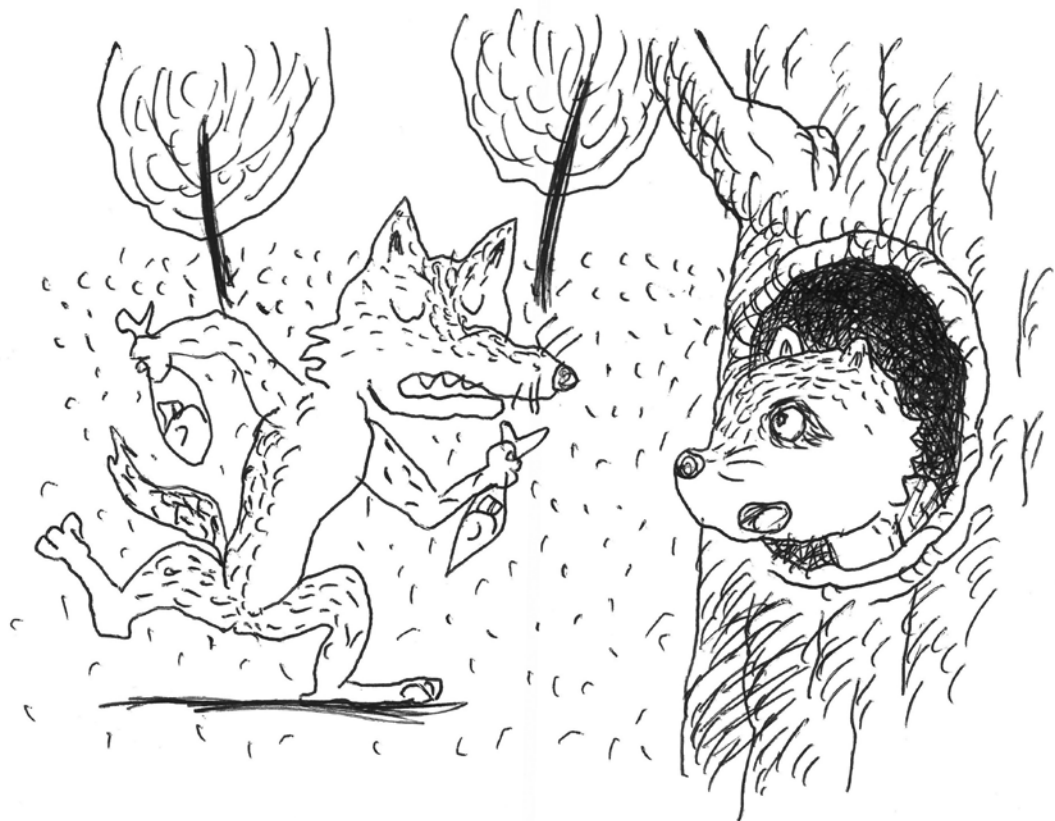
「ふん、わかっているのよ。そう言われて出て行ったら、ガブツてやるのは」

「違う。信じてくれ」

「信じられるわけじゃない。あんたオオカミなのよ」

「オオカミとアライグマが仲良くなったら悪いか」

「今までそうやって何匹の動物をだましてきたの？」



教科書編集部便り

教科書の訂正

学年・巻	ページ	箇所	21年度用	22年度用
三年下巻	94	上段 右	ボン ジア	ボア タルデ

訂正に至る経緯とお願い

今年初め、ポルトガル大使館からメールが届きました。三年下巻「世界の『こんにちは』と文字」で取り上げている「ボン ジア」を、「ボン ディア」に改めてほしいという内容のものです。「ボン ジア」は、同じポルトガル語でもブラジルでの発音に近く、「ボン ディア」のほうがポルトガル本国の発音に近い表記となるとのことでした。

ご指摘を受け、再度教材の事実確認を進めたところ、「ボン ジア（ボン ディア）」は午前中に使う言葉であることが分かりました。午後は「ボア タルデ」を使います。日本では、午前中でも早いうちは「おはよう」、昼近くは「こんにちは」と使い分けますが、ポルト

ガルのあいさつ言葉では午前・午後で区別されるのだそうです。文化によって時間の区切り方が違い、そのため、日本語と必ずしも一対一対応にならないのだろうと思われます。

編集部では、「ボン ジア」を「ボア タルデ」と改めることを考え、大使館へ問い合わせました。すると、「こんにちは」として「ボン ジア（ボン ディア）」を取り上げることは誤りではないが、「ボア タルデ」のほうがより適切だろうとの見解が示されたことから、このたびの訂正となりました。

スケジュールの関係上、訂正は 22 年度用教科書からとなりますが、授業の際には、児童の興味・関心に応じてこのような話もしていただければと思います。

平成22年度「言語教育振興財団」研究助成金 一般公募

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成 22 年 4 月～23 年 3 月（原則 1 年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位も含む）
助成件数及び金額	助成件数は 80 件まで。助成金額は 1 件につき 20 万～50 万円
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成 21 年 12 月 25 日（金）必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、直接又は返信用封筒を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成 22 年 2 月末までに通知。 平成 22 年 3 月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	財団法人「言語教育振興財団」事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174

「実はオレ、アライグマに育てられたんだ」
「やめてよ。そんな作り話」
オオカミがいくら言っても、アライグマは出て来てくれそうにありません。

でも、オオカミが外にいる限り、アライグマも他に逃げられないのです。

しばらくして、オオカミの声がしなくなりました。でも、これはオオカミの罠かもしれないと、アライグマはなかなか穴から出られませんでした。

やがて、アライグマのお腹がグーッとになりました。アライグマがそうと穴の外をのぞいてみると、オオカミがヨロヨロとこっちに向かってくるところでした。

両手に何かぶらさげています。それは、アライグマの大好きな魚でした。

オオカミはそっと二匹の魚を木のウロに入れます。

「ふん、だまされるもんか」

そう言ったもののハラペコにはかかりません。アライグマはしかたなく魚を口にしました。

しばらくして、オオカミはグミの実を持ってやってきました。今度はペロリとたいらげたアライグマは

「おいしい！」

と、声を上げました。

次の日は貝でした。

オオカミは信じてもらうために必死だったのです。でもオオカミの体も限界でした。

次の日は、雨が降っていました。なかなかオオカミが来ない

ので、アライグマがそっと外を見ると、オオカミがズブぬれになって草の上に倒れていました。

手にはリングやなしを握っています。

夕暮れ時になって、オオカミがぼんやりと目をあけると、いつの間にか木陰の中にねていました。

「あら、お目覚め？」

すぐ近くでアライグマの声がします。

「お、おまえ……」

おどろいてオオカミが起き上がると

「まだねてなきゃダメ！ ホントにバカなオオカミなんだから」

いきなりアライグマがオオカミをどなりつけました。

なんだかお母さんに怒られてるみたいです。みると、オオカミの体にふかふかの落ち葉がたくさんかぶせてありました。

「ひとのエサを心配するよりもっと自分の体を考えなさいね」
そう言いながら葉っぱのコップでオオカミに水を飲ませてくれます。

「あ、ありがとう」

アライグマのぬくもりを近くで感じると、オオカミの心もふんわりあたたまってきました。

その時からアライグマはいつもオオカミのそばにいます。

今ではオオカミもすっかり元気になって、すつくと立ち上がると、夜空に向かってこう叫びました。

「ようし、今度こそオレがボスになってやる！」

アライグマが優しく笑ってオオカミを見上げていました。



きむら ゆういち

1948年東京都生まれ。造形教育の指導、テレビ幼児番組のアイディアブレインなどを経て、絵本・童話作家に。著書は500冊を超え、数々のロングセラーは国内外の子どもたちに読み継がれている。また、『あらしのよるに』で講談社出版文化賞絵本賞など数々の受賞歴をもつ。最新作に『やっとライオン』（小学館）など。

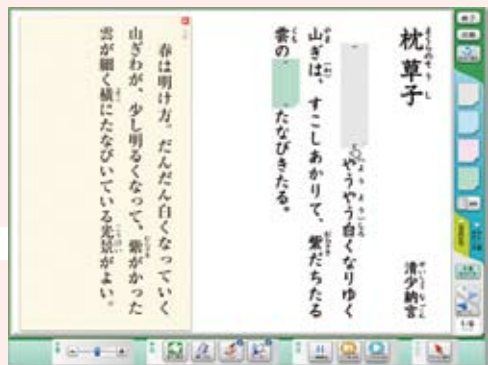
児童に映像を見せながら音読させる青山先生。



「見て聞いて、読んで楽しむ！」

小学校古典の授業

新しい学習指導要領に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設されました。小学校で古典をどのように指導したらよいのか、古典の授業イメージがもてない、そんなふうにお悩みの先生方が多いのではないのでしょうか。去る6月6日「New Education Expo 2009」東京会場で行われた青山由紀先生（筑波大学附属小学校）の公開授業は、まさにその悩みに応えてくれるものでした。



▲かくし紙機能

■イメージを広げる映像で音読に変化

今回の公開授業は、青山先生と6年生の児童32名で行われた。題材は、『枕草子』。音読・暗唱を通じて内容理解を深め、さらに歴史的仮名遣いや古典の語句を意識して、自分なりの季節感を表した「筑波版・春はあけぼの」を書くという授業である。約130名の参加者が囲むなか、50インチの電子黒板と、提示型デジタル教材「わくわく古典教室」を使って、授業は行われた。

授業の冒頭、青山先生は、『春はあけぼの』を読んでもみましょう！と、まず音読をさせる。児童は、読み進めることができるものの、古典独特のリズムや語調を意識した音読ができていない。そこで、青山先生は、「わくわく古典教室」の鑑賞用映像を見せる。すると、作品をイメージした美しい情景が映し出され、なめらかな朗読音声流れる。児童は、その映像を見ながら追読していく。映像を見る児童の顔は自然と上がり、大きな声が会場に響き渡る。冒頭の音読では表現できなかった古典独特のリズムや語調が、豊かな表情とともにはっきりと伝わってきた。

■「かくし紙機能」で暗唱を楽しく

次に、青山先生は、児童が音読から暗唱へスムーズに移れるように、「わくわく古典教室」の「かくし紙機能」で本文の一部を徐々に隠していく。時折、「どこを隠そうか？」と問いかけ、児童にも「かくし紙機能」を操作させる。児童は、かくし紙の長さを調節したり移動したりして、本文を隠していく。先生とやりとりをしながら徐々に暗唱する部分を広げていくことで、児童は自然と積極的に暗唱を楽しんでいた。

■「筑波版・春はあけぼの」の創作へ

そして、授業は「筑波版・春はあけぼの」の創作へと入る。青山先生は、まず「どの言葉を使おうか？」と問いかける。児童が「をかし!」「わろし!」などと答えると、「わくわく古典教室」のマーカー機能を使い、提示している本文にサイドラインを引いていき、古典特有の言葉遣いや、言葉の意味を理解させていく。

そして、児童は「をかし」や「わろし」などの言葉を的確に文脈の中で使いながら、自分なりに「筑波版・春はあけぼの」を書いた。

提示型デジタル教材を活用することによって、作品を視覚的・聴覚的・体感的に味わうことができ、古典への親しみがいっそう増して、創作意欲も高まっていたようだった。

研究会のご案内

第55回 全国国語教育研究大会

開催日 平成22年2月5日(金)・2月6日(土)

会場 京都市立二の丸北小学校・京都駅前アバンティホール

テーマ 実生活・実社会に生きる国語力の育成(3) ～読解力と記述力を重視して～

内容 (第1日目) 基調提案／講話／提案授業／研究協議会

(第2日目) 講演Ⅰ：文部科学省教科調査官 水戸部 修治 氏

講演Ⅱ：作家 阿刀田 高 氏

参加費 3,500 円

連絡先 京都市立二の丸北小学校内 全国国語教育研究大会本部

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町300

TEL：075-622-4684 FAX：075-622-4623

音読・暗唱・読み聞かせ

光村の提示型デジタル教材シリーズ

わくわく古典教室

新学習指導要領対応
For Windows®

特長1 画面を見ながらの音読

特長2 暗唱するための工夫がいっぱい

特長3 昔話や神話・伝承の読み聞かせ

特長4 豊富な資料映像

特長5 プリント教材の作成

特長6 全学年で活用可能

低学年用(読み聞かせ・言葉遊び編)

中学年用(短歌・俳句、故事成語編)

高学年用(古文・漢文編)

【価格】学校フリーライセンス
各 **26,250 円** (本体価格 各 **25,000 円**) ©

光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

▼「わくわく古典教室」について、詳しくはこちらまで
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/
TEL: 03-3493-5741 (お客様窓口)